

X II 禁煙補助剤

1) 喫煙習慣とニコチンに関する基礎知識

タバコに含まれるニコチンは、肺胞の血管から血液中に取り込まれ、すみやかに脳内に到達し、脳の情動を司る部位に働いて多幸感や覚醒^{せい}、リラックス効果などをもたらすが、喫煙習慣が強まると喫煙していないと体の調子が悪く感じられるようになる。体内のニコチン量が低下してくるとイライラ、集中困難、落ち着かない等のニコチン離脱症状（禁断症状）が現れ、喫煙習慣からの離脱（禁煙）が困難になる。

タバコに対する依存を解消し、禁煙を達成するには、本人の禁煙の意思に加えてニコチン置換療法が有効である。ニコチン置換療法は、ニコチンを喫煙以外の摂取方法に置き換えて離脱症状を軽減しながら、徐々に量を減らして最終的にニコチン摂取をゼロにするという方法である。

禁煙補助剤は、ニコチン置換療法に使用されるニコチンを主たる有効成分とする一般用医薬品（咀嚼^{そしゃく}剤）である。噛むことにより口腔内でニコチンが放出されて、口腔粘膜から吸収される。

使用上の注意点としては、まず喫煙を完全に止めてから使用することであり、特に使用中又は使用直後の喫煙は、血中のニコチン濃度を急激に高める恐れがあるため避ける必要がある。また、ニコチン過剰摂取のおそれがあるため、1度に2個以上使用するのも避ける必要がある。

菓子のガムのように噛むと唾液が多く出て、ニコチンが唾液と一緒に飲み込まれてしまい、口腔粘膜からの吸収が十分されず、また、吐き気や腹痛等の症状が現れやすくなるため、ゆっくり断続的に噛むようにする。顎^{あご}の関節に障害がある人では、使用を避ける必要がある。口内炎や喉の痛み・腫れの症状がある場合には、口内・喉^{のど}の刺激感等の症状が現れやすくなる。

非喫煙者では、ニコチンの作用による吐き気、めまい、腹痛などの症状が現れやすいため、誤って使用することのないよう留意する必要がある。

2) 主な副作用、相互作用、禁煙達成へのアドバイス・受診勧奨

【主な副作用】 口内炎、喉^{のど}の痛み、消化器症状（悪心・嘔吐^{おうと}、食欲不振、下痢）、皮膚症状（発疹^{しん}・発赤^{そうよく}、掻痒感）、精神神経症状（頭痛、めまい、思考減退、眠気）、循環器症状（動悸^き）、その他胸部不快感、胸部刺激感、顔面潮紅、顔面浮腫、気分不良などが知られている。

妊娠又は妊娠していると思われる人、授乳期間中の人では、摂取されたニコチンにより胎児又は乳児に影響が生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

脳梗塞^{こうそく}・脳出血等の急性期脳血管障害、重い心臓病等を有する人（3ヶ月以内の心筋梗塞発作がある人、重い狭心症や不整脈と診断された人）では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

i 噛みすぎて唾液^たが出過ぎたときは、飲み込まずにティッシュ等に吐き出す。

【相互作用】 口腔内^{くわう}が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内^{くわう}を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けるようにする。

他のニコチン製剤を使用している人では、ニコチンの過剰摂取となるおそれがあるため、併用を避ける必要がある。

また、ニコチンは交感神経系を興奮させる作用があるため、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬^{がいたん}、鼻炎用薬^じ、痔疾用薬等）との併用により、その作用を増強させるおそれがある。

心臓疾患（心筋梗塞、狭心症、不整脈）、脳血管障害（脳梗塞^{こうそく}、脳出血時等）、バージャー病ⁱⁱ（末梢血管障害）、高血圧、甲状腺機能障害、褐色細胞腫^{しゅ}、糖尿病（インスリン製剤ⁱⁱⁱを使用している人）、咽頭炎、食道炎、胃・十二指腸潰瘍^{かいよう}、肝臓病又は腎臓病の診断を受けた人では、症状を悪化させたり、使用している治療薬の作用に影響を与えることがあるため、禁煙補助薬を使用する前に、治療を行っている医師又は処方された薬剤を調剤した薬剤師に相談する等、使用の適否について慎重な配慮がなされることが望ましい。

【禁煙達成へのアドバイス・受診勧奨】 禁煙に伴うイライラ、集中困難、落ち着かないなどの離脱症状は、一般的に禁煙開始から1～2週間の間起きることが多い。日常生活の中では、日々感じるストレスに対し別のリラックス法を実践すること、スポーツ、散歩、趣味等のタバコを忘れる努力をすることなどが有益である。

禁煙補助剤により離脱症状を軽減しながら、徐々にその使用量を減らしていくこととし、初めから無理に減らそうとしない方が結果的に禁煙達成につながるとされている。

禁煙補助剤は、長期間に渡って使用したり、大量に使用するものでなく、使用期間は3ヶ月を目途とし、6ヶ月を超えて使用しないこととされている。一般用医薬品の禁煙補助剤の使用で禁煙達成が困難な重度の依存を生じている場合は、ニコチン依存症の治療を行う禁煙外来の受診を勧めることも考慮に入れるべきである。

ii 末梢動脈に炎症が生じて、末梢部に潰瘍^{かいよう}や壊疽^そを引き起こす病気。

iii ニコチンがインスリンの血糖降下作用^{きょうか}に拮抗して、効果を妨げるおそれがある。